

〔夏に強く高品質なブルーベリーの育成〕
ブルーベリー種間雑種と戻し交雑集団の観賞性評価
～観賞用品種候補の一次選抜・2年目～

中村圭亨・渋谷圭助・鵜沢玲子*・馬場 隆*・宮下千枝子*a
(緑化森林科・*園芸技術科) a現島しょセンター八丈

【要 約】ブルーベリー種間雑種および戻し交雑個体集団 795 個体について、樹勢・樹形・紅葉・開花などの点で選抜を行った。その結果、東京の気候に適合し、観賞性に優れる 37 系統を抽出した。

【目 的】

果樹として人気が高いブルーベリーは紅葉が映えることもあり、苗木供給事業でも人気が高い。また、浅根性のため屋上緑化にも利用され、今後ともその需要は拡大するものと思われる。一方で、耐乾性や耐暑性が低く、屋上緑化や生垣など多様な場面と過酷な環境下での栽培を容易にするためには品種改良が必要である。今回は昨年を引き続き、ハイブッシュ種、ラビットアイ種および野生種の交雑個体集団の中から、東京の気候にあった観賞性の優れる個体の一時選抜を行う。

【方 法】

供試材料は昨年同様、灰色低地土または赤土客土圃場にて栽培管理された 3～6 年生株の 7 交雑系統(表 1)を用いた。調査は、2008 年 5 月上旬に開花状況を、10 月上旬に生育状況を、11 月下旬に紅葉の状況を、それぞれ表 2 に挙げた項目について調査した。この結果をもとに、樹勢・樹形・紅葉・開花について選抜・抽出した。

【成果の概要】

- 1) 定植した 795 個体中、前年度までに 87 個体が枯死していた。今年度、枯死または著しい生育不良になったものは 116 個体で、残りの 592 個体を調査対象とした(表 3)。
- 2) 選抜第 1 段階として、①生育が悪いもの(樹高 25cm 未満)、②過度な生育をするもの(樹高 1 m 以上)、③枝葉がまとまらないもの(枝葉密度 50% 未満)、④葉色の悪いものを排除した。その結果、64 系統に絞られた。
- 3) 選抜第 2 段階として、紅葉し難いものや 1 個体内でばらつきのあるもの(紅葉割合 70% 未満)を排除した結果、40 系統になった。また、病虫害被害などによって判定出来ず、保留したものが 3 系統あり、最終的には 37 系統まで絞られた。
- 4) 選抜された品種を葉色により分類(紅色・褐色・黄色の 3 要素)し、さらに花房が多く見られた品種を網掛けで示した(図 1)。
- 5) 以上のことより、ハイブッシュ種、ラビットアイ種および野生種の交雑個体集団 795 個体の中から、観賞性品種として有望な 37 系統を選抜した。今後は保留した残りの品種を評価するとともに、2 次選抜に向けた増殖を兼ねた生産性試験と耐乾燥・耐暑性試験を行う。

表1 供試交雑系統

① ブルーベリー種間雑種系統	ハイブッシュ種×ラビットアイ種 ; F ₁
② ハイブッシュ戻し交雑系統	F ₁ ×ハイブッシュ種, ハイブッシュ種×F ₁
③ ラビットアイ戻し交雑系統	F ₁ ×ラビットアイ種, ラビットアイ種×F ₁
④ ハイブッシュ種系統	ハイブッシュ種内交雑
⑤ ラビットアイ種系統	ラビットアイ種内交雑
⑥ 倍数体系統	ハイブッシュ種×ラビットアイ種の倍数体
⑦ 野生種系統, 他	野生種×野生種, 野生種×ブルーベリー, 他

※2005~2007年定植

表2 調査内容および選抜手順

選抜第1段階	① 樹高 25cm 未満を排除
	② 樹高 100cm 以上を排除
	③ 枝葉密度 50%未満を排除
	④ 葉色が著しく悪いもの(目視)を排除
選抜第2段階	⑤ 紅葉率が 70%未満を排除 (紅葉, 黄葉, 褐葉および部分着色葉含む)
	⑥ 紅葉の葉色(紅葉, 黄葉, 褐葉)
グループ分け	⑦ 1個体あたりの花房数(10個を基準とする)

表3 調査個体数

	減個体数	残個体数
初期定植		795
前年枯死	-87	708
当年枯死	-107	601
生育不良	-9	592
調査対象		592

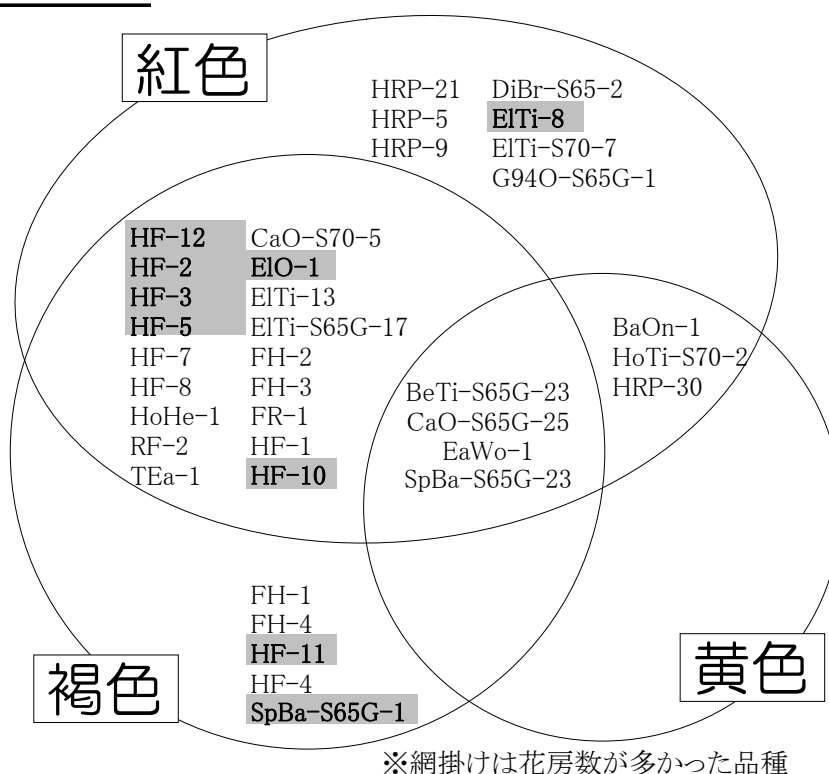


図1 選抜された系統の色による分類(順不同)